

Q. 大変なことは？

移住してからずっと農業関係の地域の中で暮らしてきているので、ここで農業者として働いていると3代目が経営者になる時代になっている。このまま日系社会を保つための努力を3世代、親・祖母の苦勞を受け継ぎながら、自分たちが3世としてやっていけるのか。日系人としての誇りを忘れないように、日系社会という基盤をきっちり守り続けていけるのか。また、ラパス日本語学校の子供たちは現地で生きていくための教育が優先されるので、日本語を学ぶこの学校は、子供たちにとっては親に「行きなさい」と言われるままに来ている場所。どうやって教科書・カリキュラムを使って指導し、定着させていくのかというのが大変なところ。今の子供たちは3世。5～6年前の子供と比べても日本語の力は落ちてきている。日本語学校の勉強は難しいというのを少しずつ和らげながら、子どもたちも楽しみながら、学習を続けていけるのかというのが難しいところです。

Q. 学校として大変なことは？

ラパス日本語学校の子供たちは、現地で生きていくための教育が優先されるので、日本語を学ぶこの学校は、子供たちにとっては親に「行きなさい」と言われて来ている場所。どうやって教科書・カリキュラムを使って指導し、定着させていくのかというのが大変なところ。今の子供たちは3世。5～6年前の子供と比べても日本語の力は落ちてきている。日本語学校の勉強は難しいという気持ちを少しずつ和らげながら、子どもたちも楽しみながら、学習を続けていけるのかというのが難しいところ。



Q. 日本の先生方に向けて一言

こういった日本と真反対のところに日系の移住地があり、そこで3世・4世の子がいる日系社会がある。そこで「日本人」の心を忘れないで生活している日本人がいることを忘れず、日本の子ども達に伝えてほしい。日本は本当に素晴らしい国だと思う。知識・能力を持った国。だから私たちも、それを誇りに思いながらここパラグアイに暮らすので、皆さんも素晴らしい国に住んでいるということを自覚してほしいと思っています。日本は、私たちの心のよりどころなのです。

Q. 日本の子ども達に向けて一言

高校生など子供たちは、長い人生のなかで1年くらい休学して留学したりして、視野を広げることも重要なのかと思います。ニュースを見ると、日本では不登校などのいろいろな問題があると聞いている。そういうときに少し立ち止まってみて、寄り道してみるというのもいいんじゃないかしら。世界は広い。行こうと思えばいつでもどこでもいけるので、広い世界に目を向けてみてください。

Q. ここ（農村）での教育は？

自分は60歳。小さい頃学校に行けなかったから、外（村の）の人が言ってくれたことを聞いて、少しずつ知識を貯めて。だから、子供たちには学んで欲しい。そのことに幸せを感じる。

でも、子供たちに勉強させてあげたい気持ちはたくさんあるけど、経済力がないから。勉強したければ子供たちの稼ぎで、自分の力で、学んでくれないといけない。悲しいけれど、しょうがないんだ。

子ども5人のうち3人が、外で仕事と勉強をしている。どの子かは戻ってきて家業（木工、左官工事、塗装工事）を継いだり、私たちが助けたりして欲しいな。

末娘は12歳で中学一年生。悪路を原付バイクで通学している。優秀な子だから日本大使館の奨学金を取らせて学んで欲しいと思っている。いつかは日本に行ってみたい。

Q. 妻の仕事についてどう思う？

妻が村で、女性コミッティーを作って活動を始めたいと言いだした最初から彼女を応援している。（JICA）来てくれてありがとう。外から来て色んな事を教えてくれたおかげで、色んなことが少しずつ良くなったんだ。ほんとうにありがとう。みんなと一緒に手を取り合って活動することや、研修などで色んなことを教えて貰うことで、自分たちの生活が良くなるきっかけになってるので嬉しい。もっとももっとパラグアイは良くなる。パラグアイには活動できる場所はたくさんあるから。学校に行けなかった分、皆さんが来て教えてくれるから知識が少しずつ着いてきている。そこから少しずつ学ぼうと思っているんだ。



ミグドニオさんの妻

Q. 日本人たちに一言

女性が働けることは良いこと。今妻がコミッティーに入っているから、うちだけ抜けることは絶対にできない。もし収入がいい仕事についてたとしても、妻自身の気持ちと仕事のチャンスがあればコミッティー活動やってほしいと思う。

困っていることいっぱいある。でももう年だから、今の生活から大きく変わることは無いと思う。でも子供たちには、汗水垂らさなくても生活出来るようになってほしいな。楽な仕事についてほしい。経済的に楽になって欲しいと思う。そしてもう一言。

僕の目に映る皆さんは、私たちが助けてくれる存在。宇宙人のように舞い降りてきて、なにか光を感じた。皆さんも団結して、私たちパラグアイ人も団結して、それぞれのグループが団結すれば力が増すでしょ。絶対光はさします。みんなで前進しましょう。

Q. やりがいと夢は？

このカテウラ地域は現地の方々ですら避けて通るような場所で、安全面も良くない。ほとんどがスカベンジャ（ゴミ拾い）でお金を得ている。多くの子どもたちは学業よりも、ゴミ拾いにより家計を助けることを優先し、40%近い子どもたちが学校を卒業出来ていないという現状だ。

そんな中、子ども達がドラッグやアルコールに走ることがないように、代わりに何か打ち込めるものを作れないか、ただその一心で作られた音楽団。カテウラ音楽団。

子供が一步一步前進していると感じたときやりがいを感じる。音楽というのは更生への一つのツールだと考える。変化・変容を促すツールなので、生徒に技術は教えるが、それ以上に力を入れていることは、価値観やしつけ等を与えること。

Q. 大変なことは？

毎日何らかの形で大変なことが起こるが、その日その都度、解決できるようにしている。問題の一つとして、子どもたちの家庭環境が悪いこと。そういう場合、細心の注意を払って接するようにしている。カテウラの子どもは労働力ゆえに、練習中も親に連れ帰される。それでも辛抱強く続けてきている。

子ども達は、主に13~15歳だが、同じ年代より責任感はずっと強く、約束を守るようになった。大変ではあるが、子どもは、任せて信頼すると、それに応えようと努力してくれる。

Q. 夢は？

カテウラ音楽団がパラグアイ一、世界一の音楽団になること。

Q. 日本の子供たちへ

夢があったらそれを叶えるために、全ての条件を備えなければならないわけではない。少しずつ、一歩ずつ、まずは踏み出して夢を叶えてほしいと思う。

これから成長するに従って、いろんな壁にぶつかると思うけど、乗り越えられない壁はない。みんなが抱える悩みより、数十倍頑張っている人もいる。がんばってください。夢をかなえるため、情熱・努力・忍耐があれば必ず叶えられます。

Q. 日本の先生たちへ

先生というのは、生徒たちにとってモデルとなる人物。先生は子供たちのちょっとした変化を読み取ってほしい。学校にいる時間だけでは、子どもたちの悩みに対応するのは難しいかもしれない。勤務外でも子供たちの悩みに向き合ってほしい。

もしも先生たちが悩みを抱えていたり、何か新しいことを始めたりしたいと思っているのであれば、我々楽団も何も無いところから始め、今に至っていますので、先生たちも情熱と努力、生徒たちのことを一生懸命考えていたら、必ず成功します。頑張ってください。





南米パラグアイには、どんな課題がある？



_____委員会 年 組 名前_____

1. あなたの考えを書きましょう。

2. エキスパート活動

- ①各自で資料を読み、SDGsと結び付けよう。(パワポ解説)
- ②班でワークシートBに貼って、自分の考えや班員の考えを共有しよう。
- ③班で一番大事な課題だと思う事から決め、SDGsの番号とともに記入しよう。(複数可)

④班長は、ワークシートBをホワイトボードに貼ろう。

3. ジグソー活動

①エキスパート活動でまとめたことを、伝えよう。

4. 最後にもう一度、下記の質問に対するあなたの意見を書こう。

南米パラグアイには、どんな課題がある？



ワークシートB

エキスパート 日系社会



全員の名前： _____

ワークシートB

エキスパート 農村地域



全員の名前： _____

ワークシートB

エキスパート カテウラ音楽団



全員の名前： _____